

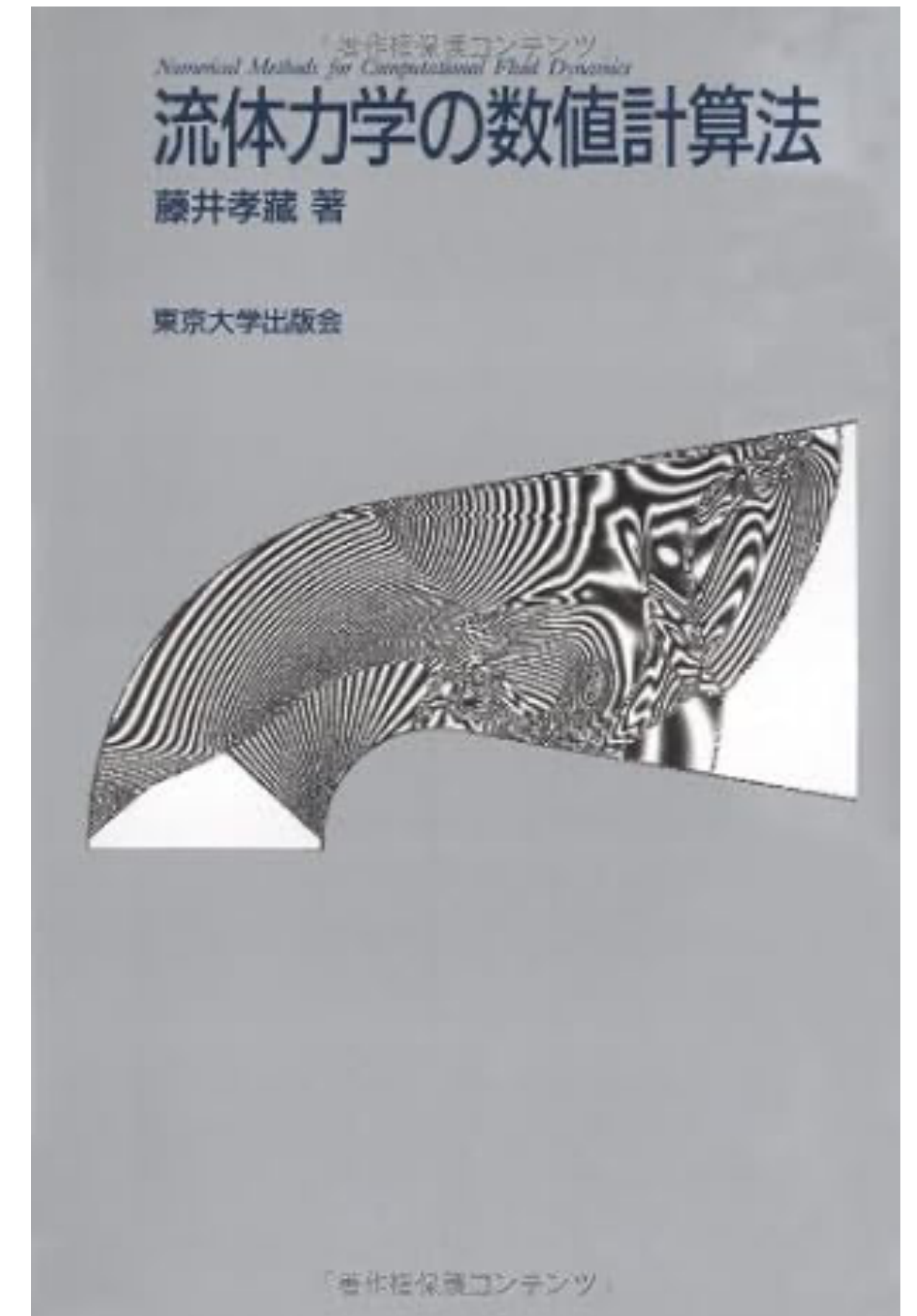
1.1. 勉強の内容

基本的に、この本の内容に沿って(足りないと思う箇所は補ったり順番をテレコにしたりしつつ)勉強を進めていきます。

→形としては、1人で輪読(?)してるような感じで、自分の頭の中の整理も含め勉強したことを共有できればと思っています。

→将来の研究に役立てるようにB4の間の勉強会で読み終わりたいと考えています。

→なるべく自分の頭の中でわかり易く言語化したいので、間違いやより良い解釈があったら教えてください。



※各スライドのタイトルは私が勝手につけたもので、本書の目次とは対応していません。

1.2. 数値的解法の目的

・何故、数値計算で方程式を解くのか？（或いは、そこから物理現象を導きたいのか？）

→実験や理論では得られない、または難しい現象のデータを得られる。
(3次元空間の時系列データや乱流現象など)

→任意の条件設定が可能で、様々な初期値や境界条件を変えて現象を見られる。

→再現性に富んでおり、同じ現象をじっくり観察できる。

これらの理由で、目的に応じた様々な数値計算法が研究・開発されている。

